

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和2年度 秋・冬 第64号

あかり

A K A R I

謹賀新年	1
みんなはサンタを救えるか!?	2
令和2年度静岡市認知症疾患医療センター 市民公開講座が行われました	3
「お薬手帳」×「うまく活用して」安心・便利	4
重症心身障がい児(者)病棟の避難経路整備	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

謹賀新年

統括診療部長 小尾 智一

謹賀新年。

新型コロナウイルス感染症の拡大で、当院でも外来受診時のアンケートや体温測定、入院時の抗原検査、面会制限、短期入所事業の制限などが行われております。患者さんたちは多くのストレスを抱えています。ご家族も同様です。

今かかっている病気の診断と治療、症状やお薬について考えるだけでも大変なのに、新型コロナウイルス感染症が大きなストレスとなっています。

ストレスによって、患者さんたちにどのような反応が出てくるのか、家族がどのように患者さんたちと向き合い、どのような距離を取ればいいのかと悩んでおられると思います。

まず大切なのは正しく知ることです。新型コロナウイルス感染症の正しい知識を得ることで気持ちが楽になりストレスが減ります。特に、感染が拡大する時は多くの情報が溢れ、不安が大きくなりなりますので、正しい情報を選び出し、不正確な情報(デマ)にまどわされないことが大切です。信頼できる情報源はどこなのか確認しておきましょう。また、今どのような状況なのか家族で話し合い、どのように行動するのが良いのか考えておくとも良いでしょう。不安感や心配は周りの人に伝わっていきます。でも、全く不安を口にしないとすると余計に怖くなったりします。みんなが不安なことを話し合い、共感すると落ち着くことができます。「不安なのは自分だけじゃ

ない。正確な情報をもって行動すればいいんだ」と。家族や周囲のみなさんも慣れないテレワークや在宅勤務、そして家事の時間が増えたことで大変だと思います。少しでも自分のプライベートな時間や場所を確保するようにしましょう。

新型コロナウイルス感染症では予防が重要です。せっけんと流水で手洗いしましょう。アルコール消毒液を使うことも有効です。外出時はマスクをしましょう。マスクが難しければ咳やくしゃみの時に口と鼻を覆いましょう。そしてなんといっても体調が悪い時は外出を控えましょう。

でも、外出できないと周囲とのコミュニケーションが難しくなり、運動不足になります。電話やメー

ル、SNSでつながって支え合いましょう。ラジオ・テレビ体操やストレッチなども取り入れましょう。

このように大変な時期になっていて、今かかっている病気にどう対処したらいいのかわからないと悩んでおられる方も多いと思います。当院にはてんかんホットライン、認知症疾患医療センター、初診前・再診相談という相談窓口があり、当院のホームページで公開しています。新型コロナウイルス感染症がある中で、今かかっている病気やそれに関連した事柄で困っている時は相談してください。よろず相談とはいかないのですが、当院の専門性を生かした対応をしたいと考えています。

本年も宜しくお願い申し上げます。



みんなはサンタを救えるか!?

～A4病棟クリスマス会～

保育士 杉村 綾香

12月22日、A4病棟のクリスマス会が開催されました。例年クリスマス会は入院中の患者様がデイルームに集まって会を実施していましたが、今年は感染症対策の為、少人数のグループに分かれて実施しました。会が始まると会場にいたのはトナカイ一人でした。あれれ？サンタさんはどこかな…？どうやら待ちきれなかったトナカイがサンタを置いて先に来てしまったみたいです。

「お腹が空いてサンタ国に帰れないよう…」とトナカイ。子ども達はトナカイの大きなお口にむかって「えいっ！」「コロコロコロ～」と沢山の食べ物をあげてお腹いっぱいにしてあげることができました。元気いっぱいになったトナカイ。無事にサンタさんを迎えにいったね！ト

ナカイを見送った後はサンタ国にいるサンタさんに届くように、みんなでハンドベルの演奏を行いました。一人一人の一人一人の音がつながり綺麗な音楽を奏でることができましたね。「シャンシャンシャン…」「おやおや？何か聞こえるぞ？」誰かがA4病棟にやってきたみたいです。「サンタさん!!!」トナカイは無事サンタを迎えに行くことができたみたいです。今年は我慢することも多かった年でした。みんなの頑張りをサンタさんはずっと見ていてくれたんだね。



令和2年度静岡市認知症疾患医療センター 市民公開講座が行われました



令和2年11月8日(日)に静岡市民文化会館大会議室にて「令和2年度静岡市認知症疾患医療センター市民公開講座」を溝口病院と共催で行いました。「認知症の最新知識Ⅱ」をテーマに一般市民51名の参加者がありました。今年度はコロナ禍での開催となったので、静岡市のガイドラインに則り感染症予防対策を実施しました。その関係で定員を例年の約4分の1の50名と大幅に削減して開催しました。

講義内容は、小尾智一認知症疾患医療センター長による①「認知症の診断と治療」、待田浩之薬剤主任による②「認知症の薬」、土幸伸子副看護師長(認知症看護認定看護師)による③「認知症のケア」、の3講義と質疑応答が約2時間半にわたって行われ、参加者はメモをとるなど熱心に聴講されている姿が見受けられ、質疑応答では活発な意見交換が行われました。

ご協力いただいたアンケート結果に「具体的で説明がわかりやすかった」「認知症の治療について、対策や介護者ができること

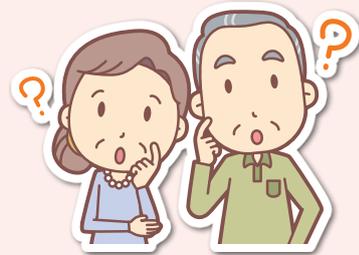
が詳しく説明されて良かった」「治療中の薬の話を知って

よかったです」など認知症の市民の関心の高さが窺える内容でした。

今年度の反省としまして、定員を削減した関係で、締め切り日より前に定員に達してしまっただけで、聴講頂けなかった方も多数おられたかと思えます。来年度はより多くの方が聴講できますよう、運営方法を検討していきたいと思えます。

2025年には団塊の世代の方が75歳以上に到達する時代を迎えます。認知症の治療には早期発見、早期治療が大切と言われており、市民の理解が必要です。

そのためにも、定期的に認知症に関する最新情報を発信する必要性を感じました。これからも皆様のお役に立てる市民公開講座を継続していきたいと考えております。



地域医療連携室 堀 友輔



「お薬手帳」×「うまく活用して」安心・便利

薬剤部 副薬剤部長 矢嶋 隆宏



令和2年夏号では、薬剤部から「院外処方」のメリットについて紹介しましたが、今回はさらに、安心・便利に日常の治療がつながる「お薬手帳」の有効活用について紹介します。

◎ みなさんはお薬手帳を持っていますか？

さて、みなさんは、「お薬手帳を持参し医療機関などに行かれるでしょうか?」。私の日常業務からの印象になりますが、入院・外来患者さんともに約8割が持参されている様に思われます。ちなみに、10年前の平成23年の厚労省からの資料では、お薬手帳の利用が望まれる保険調剤薬局に持参される患者さんは約5割という報告がありますが、当センターの現状の様に今では、さらに増えていると思われます。

お薬手帳の歴史は、1995年に発生した阪神淡路大震災時に、被災された人が普段服用している薬の名前がわからず、医療スタッフが苦労したことをきっかけにお薬手帳の利用が始まりました。しばらくは世間に浸透しているとはいいがたい存在でありましたが、東日本大震災時において、お薬手帳の情報から継続投与につながりました。以後、運用が見直されて、年々普及が進んできている状況にあります。



普及が進むにつれ、地味な表紙のデザインからキャラクターが描かれるなどポップなデザインが多く見られる様になりました。さらにはスマートフォンを利用した電子版が開発され、お薬手帳の普及は進んでいるだけでなく、進化も遂げています。

普及が進むにつれ、地味な表紙のデザインからキャラクターが描かれるなどポップなデザインが多く見られる様になりました。さらにはスマートフォンを利用した電子版が開発され、お薬手帳の普及は進んでいるだけでなく、進化も遂げています。

◎ お薬手帳は医療の現場では大活躍！

お薬手帳は、自身が服用している薬に関する情報を把握し意識を高める役割と医療現場などに治療内容の経過、既往歴、アレルギー歴、副作用歴などの情報を伝える役割があります。

当センターは、てんかん治療のために全国各地から患者さんが受診されます。前号でもお話ししましたが、私たち病院薬剤師は、主に入院患者さんの治療への関わりが求められます。入院した当日には、お薬手帳と持参された薬とを照らし合わせて、実際の服用状況を確認し、適切な用量・用法、重複投与、他の薬剤との飲み合わせなどをチェックし問題点を抽出します。そして、関係するスタッフに情報発信する重要な役割があり、正確な情報収集が求められます。

お薬手帳は、薬剤師のみが確認するだけでなく診察する医師やケアする看護師も専門的観点から確認するために用いられます。つまり、お薬手帳は、患者さんが薬の情報を把握するだけでなく、関係するスタッフすべてに正確な情報を発信することで、安全で効果的な治療を行う上で重要な存在であると言えます。

◎ 医療機関以外での活躍の場も

最近、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」と定義される「セルフメディケーション」が推進されています。言い換えれば軽度な身体の不調は、薬局やドラッグストアで、処方せん

なしで買える薬(市販薬)などを利用して症状の治療することになります。例として、これまで医療機関に受診し医師に処方せんを発行してもらっていた薬(花粉症の薬、胃薬、痛み止めなど)も市販され、身近に治療可能となり、便利になりました。また、健康の増進や体調の維持の基本は、健全な食生活、適度な運動、休養、睡眠なのですが、つい簡単に購入可能な健康食品(サプリメント)を使用しがちな場も多いかと思われます。しかし、健康食品の中にも医薬品が配合されている商品や飲み合わせが悪いものもあり服用には注意が必要となることもあります。この様な場合でも、医療機関と同様にお薬手帳をスタッフに見せれば確認し最適なアドバイスをしてもらえるはずです。逆に言えば、これらの情報も医療機関と共有すれば、より安全に治療が受けられることとなり、市販薬や健康食品に関してもお薬手帳に記載することが望まれます。

◎ 手帳を有効活用するために求められることとは何？

私が、お薬手帳の内容を確認すると、「せっかく持っているのに…」、「患者さんのプロフィールが書いていない」、「処方内容のシールが抜けている」など十分に情報が得られない場合もあります。有効活用するには、私の理想もふまえて手帳には以下のことが望まれると考えています。

- ① 医療機関ごとに手帳を分けるのではなく1冊にまとめる
- ② 医療機関(保険調剤薬局・ドラッグストア)に行くときは必ず持参し、見てもらい、重要事項は記入してもらう
保険証、診察券とセットで持ち歩く
- ③ 基本情報(既往歴、アレルギー・副作用歴など)までしっかり書く
- ④ 処方内容などの情報は毎回、抜けがないように情報を更新する
- ⑤ 多くの情報が確認できる様、なるべく厚めのお薬手帳を使用する
ポケットサイズのノートなど自分に使いやすい様にカスタマイズすることも可
- ⑥ 日頃の経過、気になることは、自分自身で書きとめておくと便利
- ⑦ 電子版お薬手帳は、医療機関と連動したシステムの整備が進まない現状から、冊子版と併用することが望ましい



以上のことを注意すれば、だれにでも、どこでも正確な治療経過が伝わり、お薬手帳の本来の役割になると思われます。

◎ 最後に

お薬手帳は、自身で使い方を工夫すればさらにより良い情報・伝達ツールになります。患者さんのみならず、私たちはそれを見せてもらうことで情報収集し、安全で有効に治療が行われる様に役立っているのです。ですから、重要性を認識し、しっかり管理し有効活用していただけたらと思います。相談していただければより有効活用できるように私たち薬剤師はサポートすることもできます。





重症心身障がい児(者)病棟の避難経路整備

車庫長 水野 欣彦

当院では、重症心身障がい児(者)が約140人入院されています。病棟は1階に2病棟、2階に2病棟、合計4病棟(B1、B2、C1、C2)となっております。重症心身障がい児(者)患者様は自分で歩いて避難することが困難なため、2階の病棟には、もしもの時に患者様を避難する際に使用する滑り台が2台あります。しかし、滑り台の着地場所は普段使用しないこともあり、雑草がたくさん生えていました。このままでは、円滑な避難行動に支障が生じる恐れがあるため、整備を行うこととしました。

業者に委託すると費用が大きくなるため、令和2年の夏から11月まで、ホームセンターなどから材料を購入し、少しずつ整備することとしました。

まずは、雑草や石の除去を行い、地面をきれいにしました。次に除草剤を散布し、碎石砂利を敷き詰め防草シートで覆い雑草が生えてこないようにしました。最後に患者様が着地した時に痛くないよう人工芝を敷きました。

避難などで利用する機会がないことがもちろんですが、今回の活動により緊急時には滞りなく利用できることとなったと思います。今後も患者様目線のサービスを行い病院に貢献していきたいと思っております。

① 雑草や石を除去した状態



② 碎石砂利を敷き詰める途中



③ 人工芝を敷いて完成



診 療 体 制

てんかん科		午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30									
診察室	曜日	初 診					再 診				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室								山崎	川口	山崎	白井
第2診察室						荒木 保清	久保田 (代診)	池田 仁 <small>午前のみ</small>	荒木	大松	
第3診察室			今井 克美		白井 直敬	今井 克美	今井				
第4診察室								鳥取	日吉		西村
第5診察室							池田 仁	池田 浩	池田 浩	寺田清 (代診)	川口 <small>午後のみ</small>
第6診察室							芳村			芳村	松平
第7診察室				山口 解冬				荒木		美根	山口
第8診察室	高橋 幸利				高橋 幸利			西田	高橋		近藤
第9診察室			川口 典彦	芳村 勝城			重松 (代診)			大谷	大谷
第12診察室	西田 拓司			松平 敬史	池田 仁	山崎 悦子					

脳神経内科		初診				
診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	高嶋 浩嗣	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾 智一	小尾 智一	小尾 智一		小尾 智一
第11診察室	午前	杉浦	杉浦			山崎
	午後	杉浦 明		寺田 達弘		尾内 (第4週)
第13診察室	午前			高嶋		

特殊外来		月・水	小尾 智一
認知症疾患医療センター	水	水	寺田 達弘
	金	金	山崎 公也
	適宜	適宜	高橋 幸利 小尾 智一
遺伝カウンセリング外来		適宜	高橋 幸利 小尾 智一

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

T E L ■ 054-246-4580

F A X ■ 054-246-4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人 ■
 西田 拓司 松下 剛 横山 由香
 矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 葛城 裕幸
 田中佐代子 高橋 輝 長田 英喜
 福島 啓介

発行 ■ 令和3年1月27日
 国立病院機構
 静岡てんかん・神経医療センター
 〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054-245-5446
 F A X ■ 054-247-9781
 U R L ■ <http://epilepsy-info.jp/>
 E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)
その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,750円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

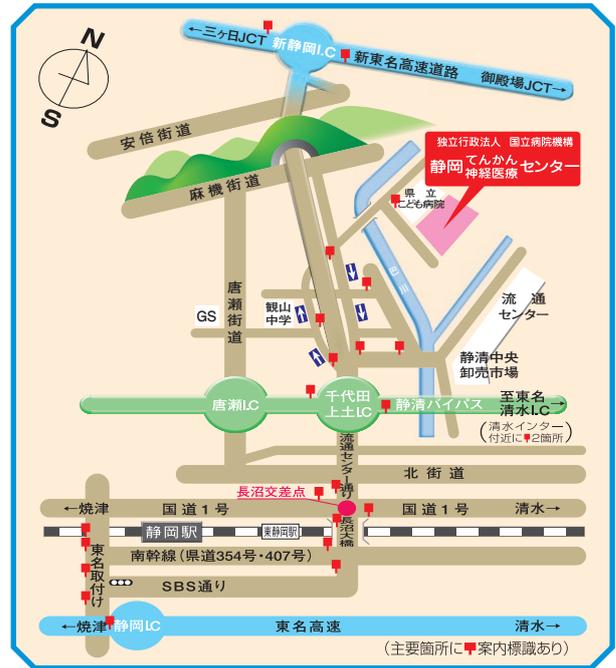
セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人370円、小児190円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から
	名古屋方面から
東京方面から	● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。 ● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～
【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

●新 小児てんかん診療マニュアル 【診断と治療社、2019年】

多くの読者に支えられ改訂を重ねてきた本書。今回、2017年の新しいILAE てんかん発作分類提案に基づいた小児てんかん診療を可能とするために、ここに「新版」として生まれ変わりました。新規抗てんかん薬だけでなく、新分類で重視される病因別の特徴や心因性非てんかん発作、遺伝子検査、MRSといった新しい画像検査など、てんかん学の進歩をたくさん詰め込みました。

●プライマリ・ケアのための

新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <https://shizuokamind.hosp.go.jp/epilepsy-info/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)